



三角パートナーシップ・プログラム (TPP)

ファクトシート

概要

国連は、2014 年に開催された第 1 回 PKO サミットの成果を踏まえ、国連平和維持活動 (PKO) 要員への訓練を通じ、PKO をより効果的に行うことを目指し、2015 年に東アフリカで三角パートナーシップ・プロジェクトを開始した。①PKO 要員派遣国、②支援国、③国連の三者が共同で取り組む、国連の PKO 能力構築事業である本プロジェクトは、その後、事業内容の充実及び実施対象の拡大に伴い、「三角パートナーシップ・プログラム (TPP)」に発展した。立ち上げから 10 年が経過した現在、TPP では、工兵 (施設)、医療、情報通信 (C4ISR*) の三つの分野での PKO 要員に対する訓練プロジェクトのほか、PKO ミッションでの医療環境改善に対応するための遠隔医療プロジェクトを実施中である。また、本プログラムは国連 PKO の要員だけでなく、アフリカ連合 (AU) 平和支援活動 (PSO) の要員に対しても訓練を提供するなど、その活動範囲を拡大している。

※ C4ISR: 指揮・統制・通信・コンピューター (C4)・情報・監視・偵察 (ISR)



目的

TPP は、訓練や PKO の活動支援を通じ、工兵 (施設)・医療・C4ISR 分野に関する PKO 要員の能力を強化することを目的としている。訓練を受けた PKO 要員が実際にミッションに派遣されることで、質が高く効果的な PKO 及び PSO を実施することができる。また、遠隔医療システムのような、より良い活動支援に必要な枠組みの提供も行っている。こうして、TPP は「PKO のための行動 (A4P)」や「A4P プラス」に寄与している。

訓練及び活動支援の特徴

- 部隊の早期展開:** PKO 及び PSO ミッションへの部隊の早期展開を支援するため、十分な訓練を受け能力を備えた要員を育成・確保。PKO 要員派遣国の PKO 即応能力登録制度 (PCRS) への登録レベルの引き上げにも貢献。これまでの TPP 訓練生は、訓練後、中央アフリカ共和国 (MINUSCA)、マリ (MINUSMA)、コンゴ民主共和国 (MONUSCO)、レバノン (UNIFIL)、アビエイ (UNISFA)、南スーダン (UNMISS)、ソマリア (AMISOM、ATMIS) などに派遣。
- 多様なニーズに答える柔軟性:** アフリカ、アジア太平洋及び南米で、支援国や受入国と協力した訓練を実施。
- 長期的な能力の強化:** PKO 要員派遣国が自ら必要な訓練を実施できるよう、教官養成 (TOT) コースを提供し、地域及び各国国内における教育訓練の中核となる教官の育成に寄与。
- 分野を横断した訓練ニーズ:** 分野を横断した訓練を通じ、新たな能力ニーズに確実に対応。例えば、国連地雷対策サービス部 (UNMAS) による爆発物危険認識訓練 (EHAT) と連携した工兵 (施設) 訓練などを実施。
- PKO における新たな能力ギャップ:** 引き続きステークホルダーと連携して、環境管理や即席爆発装置対処 (C-IED) といった PKO における新たな能力ギャップを特定し、TPP 訓練を通じて対応。
- 遠隔医療ネットワーク:** 遠隔医療システムを強化し、PKO ミッション内の様々なレベルの医療施設をネットワーク化、また一部のミッションと加盟国の病院間のシステムを構築し外部専門家による医療支援を提供 (MINUSCA、UNMISS、ゴラン高原 (UNDOF)、ソマリア (UNSOS)、リビア (UNSMIL) 及びアビエイ (UNISFA) ; これまでに MINUSMA 及び MONUSCO でも試験的に導入)。

プログラムの効果

PKO 要員派遣国 (TCC)

自国単独では実施が困難な専門性の高い訓練を受けることができ、任務遂行に必要な高い能力を保持した要員及び部隊の派遣が可能。また、教官養成コースを修了した要員を中核として、自国で最新のカリキュラム、教材を活用した訓練の実施が可能。

支援国

TPP の各種訓練等への専門家や教官の派遣、教育訓練施設の提供、機材 (※二国間供与)、財政支援等を通じて、任務遂行、PKO 活動での安全性確保、PKO 活動の質的向上等、PKO ミッションへの貢献が可能。また、PKO 要員派遣国の要員及び部隊の育成に協力することで、PKO 要員派遣国とパートナーシップ醸成の機会を獲得。

国連

工兵 (施設)・医療・C4ISR 分野において、質の高い要員及び部隊の確保が可能。緊急の医療ニーズや、より高いレベルのケアによる専門的支援に迅速に対応する能力も向上。「A4P」や「A4P プラス」に寄与。PSO への貢献を通じた AU とのパートナーシップの強化。

分野横断的効果

- 国連内外の専門家と連携し、工兵 (施設)・医療・C4ISR 分野の訓練を標準化。
- 複雑な PKO ミッション環境下での効率的な部隊展開を支援。
- 現在実施中の分野に限定されず、PKO が抱える諸課題の解決にも応用できる可能性。
- 国連の標準的な運用要求に沿って PKO 要員のパフォーマンスを向上。

PKO 要員の安全

- 遠隔地における適切かつタイムリーな医療の提供で、不必要な患者後送を低減。
- PKO ミッションでの医療アクセスを改善。医療施設間でより多くの専門家が協議 (協同的医療ケア) できる仕組みを確立。
- 専門医のいない場所での医療支援が可能。



TPP 訓練・活動支援の概要

工兵(施設)分野の訓練

- 2015 年以降、アフリカ、アジア・太平洋地域地域の PKO 要員派遣国から 1,150 人の工兵要員が対面式訓練又はリモート訓練に参加。
- 5 か国(日本、韓国、スイス、ブラジル、モロッコ)が教官を派遣。
- ウガンダ、ケニア、モロッコ、ルワンダ、インドネシア、カンボジア、ベトナム、ブラジルが、訓練ホスト国として訓練施設や装備品を提供し、訓練に必要な業務を支援。
- 韓国は TPP の訓練に使用する機材を訓練ホスト国に譲渡。
- 2025 年前半には、3 つの対面式コース(HEE 操作(初級))の実施が予定されている。
- 1 つのリモートコース(作業工程管理(CPM))を現在オンラインコースに変換中。
- これまでに日本、オーストラリア、韓国及びスイスが工兵(施設)分野の訓練への財政支援を実施。



医療分野の訓練

- 2019 年以降、ミッション(MONUSCO、UNISFA、UNMISS)及び PKO 要員派遣国から派遣された 267 人の非医療従事者である PKO 要員が、ウガンダの国連エンテベ地域支援センター(RSCE)で実施された野外衛生救護補助員コース(FMAC)に参加。
- FMAC 教官養成コース(TOT)は、バーチャル・ワークショップと対面式訓練で構成され、これまでに 62 人が TOT の全カリキュラムを修了。
- これまでに日本、イスラエル、インド、韓国、国連平和発展信託基金(UNPDF)(中国)が医療分野の訓練への財政支援を実施。



情報通信(C4ISR)分野の訓練(国連情報通信学校(UNCAP))

- 2016 年以降、150 か国、26,932 人の軍・警察関係者が、RSCE やインミッションでの対面式訓練、オンライン(自習型)訓練、もしくはバーチャル・インストラクター主導訓練(VILT)に参加。このうち、15,917 人が対面式訓練を、10,053 人がオンライン訓練を、962 人が VILT を受けた。
- 2024 年末、UNCAP は初のハイブリッド訓練を試験的に導入し、VILT と従来の教室方式を統合したコミュニケーション・情報システム(CIS)計画コースで 17 人を訓練した。
- 13 回の女性アウトリーチコース(WOC)が実施され、アフリカ、アジア、欧州、南北アメリカから 74 か国、303 人(軍人 208 人、警察官 95 人)の女性職員が参加。このうち 40 人の修了生が PKO に派遣された。
- 2021 年、小型無人航空システム(M-UAS)コースを開始し、これまでに M-UAS リモートパイロットコース(RPC)を 8 回、M-UAS TOT コースを 7 回実施。また、移動訓練チーム(MTT)が MINUSCA、MONUSCO、UNISFA、UNSOS といったミッションやその他の国連諸機関で M-UAS コースを実施。これらを通じて、UNCAP は 48 か国、109 人のオペレーター(うち女性 10 人)と 57 人のトレーナー(うち女性 4 人)を養成。
- 日本、インド、カナダ、デンマークが財政支援、ウガンダ、ドイツ、フランス、NATO 情報通信システム学校(NCIA)が、教官の派遣、専門知識、助言やロジスティックスにおける技術支援で協力。



新たな重点分野

- AU PSO の要員に対する訓練
 - 2024 年に実施された 2 回のワークショップを受け、AU PSO の訓練要件を満たすようにコースを改良。AU PSO 要員派遣国に焦点を当てた初の訓練として、FMAC/FMAC TOT と爆発物危険認識訓練(EHAT)の分野横断訓練を 2025 年 2 月に立ち上げる予定。

- 日本、韓国、ポルトガルが AU PSO の要員に対する訓練への財政支援を実施。
- 即席爆発装置対処(C-IED)訓練・分野横断訓練
 - TPP は引き続き UNMAS と協力し、C-IED 訓練を実施。
 - 2024 年 6 月、初の分野横断訓練として、HEE 操作コースと EHAT をケニアで実施。
 - 2024 年 11 月、カンボジアで HEH 操作コース・FMAC・EHAT の日豪韓多国籍分野横断統合訓練を実施。
 - 2025 年、工兵(施設)分野と医療分野のコースに EHAT を組み合わせ、分野横断訓練を基本とする方針。
 - 2024 年 6 月に韓国で EHAT TOT を実施し、2025 年には EHAT TOT と IED 脅威軽減訓練 TOT を開催して、C-IED 訓練教官の人材プールを確立する予定。
 - オーストラリア、韓国、ケニアが教官を派遣。
 - 日本、韓国、スイスが C-IED 訓練・分野横断訓練への財政支援を実施。
- 環境管理訓練
 - 平和維持・平和支援活動における環境配慮の主流化を目指し、さらなる活動分野を模索。2021 年にリモートでパイロットコースとして実施された平和活動における UN 環境管理コースをオンラインコースに変換中。
 - 日本とドイツが環境管理訓練への財政支援を実施。

遠隔医療プロジェクト

- 遠隔医療プロジェクトは、革新的なデジタル技術を活用して、PKO 要員の医療へのアクセスを改善し、質を高めることを目的として開始。
- 現在、遠隔医療プロジェクトは MINUSCA、UNMISS、UNDOF、UNSOS、UNISFA、UNSMIL の合計 6 つの国連 PKO ミッション(20 カ所以上)で運用されている。また、過去に MINUSMA と MONUSCO にも導入されていた。
- 遠隔医療プロジェクトは、遠隔医療の利用を統合し、以下のようなミッション内の様々な運用上の医療ニーズに対応している。(1) 基地や高度な医療施設の専門家と、遠隔地である最前線で活動する PKO 要員を結びつけ、受傷地点や患者搬送中にリアルタイムの遠隔医療支援を提供。(2) 専門家の意見を聞いたり、臨床的意思決定を助けたりするために、医療レベルの異なる医療従事者間を連携。このイニシアチブで、ミッション内の遠隔医療の適用範囲は拡大し、ミッション外からの遠隔医療支援(加盟国の専門病院との国境を越えた遠隔医療連携)を追加。(3) 最前線の外科医をサポートし、より優れた外科サービスを提供する能力を高めるため、リアルタイムの遠隔手術支援・指導技術を現場に導入することの実現可能性を検証。
 - 遠隔医療プロジェクトは、国連 2.0-変革の五重奏部門で 2023 年国連事務総長賞を受賞。同賞は、先進的な文化により活性化され、21 世紀の最先端技術により強化された、現代的な国連ファミリーという事務総長のビジョンを強調し、国連による人々と地球への支援をさらに加速していくプロジェクトを表彰するもの。
- これまでに日本、イスラエル、オーストラリア、韓国、ポルトガル、UNPDF(中国)が遠隔医療プロジェクトへの財政支援を実施。



三角パートナーシップへの支援

- 150 か国を超える加盟国は、「国連平和維持活動に関する共同コミットメント宣言」を支持し、三角パートナーシップを含む革新的なアプローチを通じ、PKO 要員の準備、訓練、装備を強化することを約束。
- TPP を持続可能な事業とするため、国連は加盟国からの財政支援や教官派遣、工兵(施設)、医療、C4ISR 関連の装備の提供等、あらゆる面での支援を歓迎する。

連絡先

- プログラムチーム: 伊東孝一 (itot@un.org)、Ms. Amy Weesner (weesner@un.org)
- 情報通信技術局(OICT)/ UNCAP: Mr. David Brazier (brazierd@un.org)、Ms. Florence Keter (keterf@un.org)